

グローバル化の進展に伴い、これまでの国際交流、国際協力や多文化共生といった分野にとどまらず、様々な行政施策に国際化の影響が及んでいます。

また、これからの地域の担い手となる人材がその資質を高めていくには、施策の国際比較を含めた国際的な視点を学んでいくことが求められます。

JIAMでは、平成28年度におきましても、国内での講義・演習の後、海外へ赴き現場で学ぶ研修を実施します。海外では、同行する専門家の指導を受け、先進事情や異文化などを実際に見聞きし、理解を深めます。

つきましては、以下の3研修をご案内いたしますので、職員研修として、ぜひご活用賜りますようよろしくお願い申し上げます。

受講を希望される場合は、平成28年2月10日（水）までに「平成28年度JIAM年間派遣計画書」をFAXによりお送りください。申込手続きの詳細は、「平成28年度研修計画」をご参照ください。

## JIAM海外研修の特長

### ◆ 現場にこだわったプログラム内容！

それぞれのテーマに応じた訪問先や訪問都市を選定し、調査先の視察に加え、その現場で働くスタッフ等との意見交換を通して、生の声を聞くことで理解を深めます。

### ◆ それぞれのテーマの専門家が海外研修に同行します！

国内講義を担当する大学教授等の専門家が海外へ同行し、その指導のもと、現地にて見学、調査を行います。日々「ふりかえり」を行い、同行講師の助言や指導を受けることにより、知識を定着させながらさらに理解を深め、政策形成能力の向上を図ります。

### ◆ 第一線で活躍している講師による事前研修！

国内での事前研修において、第一線で活躍している講師による講義を受け、また、グループ討議や海外事情の事前調査を積極的に行うことにより、海外での研修の理解をより深めます。また、それらを通じて人的なネットワークを築くことができます。



サンフランシスコ市庁舎  
(平成27年度)

## 1. グローバル人材開発コース（国内+海外）

自治体経営、リーダーシップ、歴史、文化等、幅広い分野に関する講義や演習、アメリカにおける先進事例の現地調査等を通じて、「将来のリーダー」としての資質を高めるとともに、国際比較を含めた様々な視点から自治体の課題に向き合い、施策を立案できる人材の育成を図ります。

（日程）平成28年8月22日（月）～9月16日（金）

【国内15日間、海外11日間】

- （国内研修）
- これからの国際化社会における地方自治
  - アメリカの地方行政と自治
  - 自治体経営に関する講義、事例紹介
  - 事例分析の方法、政策立案演習 など

（海外研修）アメリカ国内の2都市程度を予定

（講師）明治大学経営学部公共経営学科准教授 菊地 端夫氏

（費用）概ね59万円（うち、海外研修費53万円）



コロラド州政府（地方部局）での  
レクチャーの様子（平成27年度）

## 2. これからの公共のあり方～国際比較の視点から～（国内＋海外）

テーマ「これからの公共」に的を絞った講義やアメリカの先進事例の現地調査等を通じて、住民・民間非営利組織（NPO）との協働の方策や実情について日米の違いを理解し、地域においてNPO等と協働するための施策を企画・立案できる能力の向上を図ります。

（日 程） 平成 28 年 8 月 23 日（火）～9 月 5 日（月）

【国内 4 日間、海外 10 日間】

（国内研修） ・これからの公共のあり方の日米比較  
・NPO 等と行政の協働の仕組みづくり など

（海外研修） サンフランシスコ及びその近郊都市（予定）

（講 師） 静岡大学人文社会科学部法学科教授 日詰 一幸氏

（費 用） 概ね 47 万円（うち、海外研修費 45 万円）



サンノゼ市内の NPO でのレクチャーの様子  
（平成 27 年度）

## 3. 環境とユニバーサルデザインに配慮したまちづくり（国内＋海外）



市街地のにぎわいを実感する様子。

（ストラスブールの LRT とトランジット  
モール）

（平成 27 年度）

国内外の先進事例や訪問都市の取組等を国内で事前学習した後、ヨーロッパの訪問都市において、現地に見学・調査を行うことによって、地域の特性に合った「環境とユニバーサルデザインに配慮したまちづくり」に関する政策形成能力の向上を図ります。

（日 程） 平成 28 年 9 月 4 日（日）～9 月 16 日（金）

【国内 3 日間、海外 10 日間】

（国内研修） ・公共交通を活かした交通戦略とまちづくり  
・人と環境にやさしいまちづくり など

（海外研修） ・ヨーロッパの 3 都市程度を予定  
（27 年度実績：ロンドン、フライブルク、ストラスブール、ナント）

（講 師） 徳島大学大学院ソシオテクノサイエンス研究部  
教授 山中 英生氏

（費 用） 概ね 51 万円（うち、海外研修費 49 万円）

※ 記載されている内容は、都合により変更となる場合があります。

### 参加者の声（平成 27 年度）

#### 【グローバル人材開発コース】

- 海外視察を踏まえて、行政は様々な主体が意見を出し合える「場づくり」の環境整備が大事だと感じた。
- 専門的な分析能力など個の能力に加え、各セクションとのネットワークの重要性を再認識できた。

#### 【これからの公共のあり方】

- 書物やインターネットからの情報だけではわからないアメリカ社会の現状や、成功・成長の原動力を実際に目にする事ができた。
- 現地で見ることの大切さを知るとともに、研修参加者で話し合い、同じ時間を共有することができ、非常に身になった研修であった。

#### 【環境とユニバーサルデザインに配慮したまちづくり】

- 意識、システムの日本との異なりように衝撃を受けました
- 百聞は一見にしかずで、現場で直接自身の目で学べて良かった。

【問い合わせ先】（公財）全国市町村研修財団 全国市町村国際文化研修所 教務部

〒520-0106 滋賀県大津市唐崎 2 丁目 13 番 1 号 (<http://www.jiam.jp>) 電話 (077) 578-5932 FAX (077) 578-5906

## 平成 28 年度 指導講師メッセージ

### グローバル人材開発コース

指導講師 明治大学経営学部准教授 菊地 端夫 氏



平成 28 年度のグローバル人材開発コースでは、これからの自治経営の中長期的なあり方について考える機会や創造性を養うことを目的に、国内での基礎研修と、アメリカの地方自治の多様な姿について複数の事例の調査・分析を通じた研修を実施します。

少子高齢化、人口減少と自治体を取り巻く環境が大きく変化する中で、複雑多様化する住民ニーズにどのように応えていくか。何を優先的な価値として求めていくかを住民と一緒に考えて、そのためのありうべき選択肢を示していくことが、行政マンに求められるリーダーシップではないでしょうか。これまでは画一的であった地方行政の仕組みが、地方分権により徐々に多様な制度や施策の選択肢が存在する仕組みに変わってきています。住民の選択がどの自治体にもない“わがまち”の独自の施策となるのも遠い将来ではありません。

全国から集まった志を共にする受講生と一緒に、新鮮な気づきと広い視野を得て将来への構想力を磨きませんか。約 1 か月の本研修で得るものは、自治体と地域社会の未来を担う大きな力になるはずです。

### これからの公共のあり方 ～国際比較の視点から～

指導講師 静岡大学人文社会科学部教授 日詰 一幸 氏



近年、日本社会がかかえる社会課題は多様化・複雑化し、これまでのように行政機関だけで解決することが困難な状況となる中、行政とNPO法人等との連携の枠組みが多数みられるようになってきました。また最近の傾向として、その枠組みの中に企業も加えることが多くなっています。

平成 28 年度の「これからの公共のあり方～国際比較の視点から～」では、社会課題を解決するために、行政やNPO・市民活動、そして企業がどのように連携するのか、また、市民活動団体やNPO法人が活動しやすい環境をどのように整備するのか、これらの点をアメリカに赴き、様々な取り組みを調査・検討することを通して多くの示唆を得ます。

アメリカにおいて取り組まれている事例の多くは、少なからずわれわれの疑問を解く糸口を与えてくれるはずです。課題解決の仕組みを構築することは、創造的であるとともにイノベティブなものです。そのような仕組みづくりに果敢に挑戦する日本の自治体職員にとって、アメリカの事例は多くの示唆を与えてくれるよい機会となることでしょう。

### 環境とユニバーサルデザインに配慮したまちづくり

指導講師 徳島大学大学院リソテクノサイエンス研究部教授 山中 英生 氏



「まちづくり」が目指す姿は、ますます多様化しています。高齢化、少子化、人口減少といった避けられない将来に対して、地域活性化、地域再生、地方創生と環境や人にやさしく、そして賑わいにあふれる都市・地域づくりに向かって、様々な施策が進められています。

平成 28 年度「環境とユニバーサルデザインに配慮したまちづくり」の研修では、そうしたまちづくりが目指す方向として、「移動と空間の価値づくり」という視点から、その姿を実現している欧州の中小都市の挑戦を学びます。

まちづくりの聖地と呼ばれるフランスのストラスブール市、環境都市の手本となっているドイツのフライブルグ市を始め、これらの都市に追いつき・追い越そうと工夫をしている都市を巡り、賑わいあふれる中心市街地の空間デザイン、LRT・自転車などの快適な移動手段のネットワークづくり、障がい者や高齢者に優しい施設づくりなど実感から学ぶ研修を目指しています。

※別途 JIAM 発行機関誌「国際文化研修」第90号（平成28年1月15日発行）の特集「海外の現場から自治を考える」にて、海外研修の意義や効果について、指導講師からご紹介をいただきます。

外国人住民の数が210万人を超えており、住民の1割以上が外国人という集住地域もあります。また、平成26年には、訪日外国人旅行者の数が1300万人を超え、消防職員が外国人と接する機会もますます増えてくるものと思われます。

このコースは、消防職員を対象に、非常時において、外国人の救援救助活動に迅速・的確に対応できるよう、外国人とのコミュニケーション能力の向上を図るとともに、そのために必要な知識や方法を学ぶことを目的に開催します。

受講を希望される場合は、平成28年2月10日(水)までに「平成28年度JIAM年間派遣計画書」をFAXによりお送りください。申込手続きの詳細は、「平成28年度研修計画」をご参照ください。

## 消防職員コース～非常時における外国人とのコミュニケーション～

(日 程)	平成28年5月18日(水)～6月3日(金) 17日間
(内 容)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・語学研修(共通:英語、選択:中国語又はポルトガル語)</li> <li>・自治体の危機管理</li> <li>・災害時における外国人の救援活動</li> <li>・外国人住民の医療問題と情報提供の方法</li> <li>・外国人住民からみた日本</li> <li>・外国人とのコミュニケーション</li> <li>・自治体の事例紹介</li> <li>・施策立案演習 など</li> </ul>
(対 象)	消防職員(自治体の防災担当職員含む)
(受講経費)	概ね70,000円
(予定人数)	30名

### ■ コースの特長

- 語学授業については、受講者の語学レベルに応じた少人数のクラス編成を行いますので、安心して学ぶことができます。
- ロールプレイを取り入れて、けがをした外国人に英語で様子を確認するなど、実際の状況を想定して再現することにより、生きた英語、使える英語が体得できます。
- 第二外国語として、中国語とポルトガル語の2言語から、地域の事情に即した言語を選択し、それぞれの言語の基礎を学びます。
- 講義や演習等を通して、全国各地の消防職員と意見交換をしながら、議論を深めることができます。
- JICA(国際協力機構)からの研修生を受け入れる際にも、このコースの修了者が活躍されています。



グループワークの様子

【問い合わせ先】(公財)全国市町村研修財団 全国市町村国際文化研修所 教務部

〒520-0106 滋賀県大津市唐崎2丁目13番1号(<http://www.jiam.jp>)電話(077)578-5932 FAX(077)578-5906

## 平成 28 年度 J I A M 年間派遣計画書

	研修名	派遣計画人数
海外研修	グローバル人材開発コース (国内+海外)	人
	これからの公共のあり方～国際比較の視点から～ (国内+海外)	人
	環境とユニバーサルデザインに配慮したまちづくり (国内+海外)	人
国際文化 研修	消防職員コース ～非常時における外国人とのコミュニケーション～	人
合計人数		人

都道府県名	団体名	市区町村コード番号					

研修事務担当部署名	
電話番号	
FAX 番号	
E-mail	
担当者名	

※団体が市区町村の場合は、市区町村コード番号欄に全国市町村要覧記載のコードを6桁で記入してください。

※平成 28 年 2 月 10 日(水)までに、FAX により J I A M 教務部まで提出してください。

(FAX : 077-578-5906)